

「統計学教員育成研修」への参加推薦のお願い

コンソーシアム参画機関の皆さまには、各種の取組にご協力いただき、ありがとうございます。

新たな5年間の統計エキスパート人材育成事業(文科省補助事業)が開始となり、「統計学教員育成研修」は、**研修期間を従来の2年間から1年間に短縮し、受講者数を拡大します**(希望者には2年間の研修を実施)。「新第1期 統計学教員育成研修」は、2026年10月に開講する予定です(詳細は別添資料:研修計画)。

つきましては、新第1期研修への参加を希望する**若手研究者(講師、助教、ポスドク等)の推薦**をお願いします。**研修期間1年間と受講しやすくなりましたので、多くの方々の参加推薦をお待ちしております。**
(客員研究員など直接の雇用関係のない者も含め、幅広い若手研究者の参加が可能です)

(注) 研修生には、研修の参加に関連して必要となる経費を支給する予定です。
(委託費として所属大学等に配分、又は、統計数理研究所による直接執行)

1. 「統計学教員育成研修」は、大学院生等に対して統計学の講義等を行うことができる「統計学教員」を育成する研修です。このため、研修に参加する若手研究者には、**次のような能力と意欲**を有することを求めます。

- ① 専門学術領域における研究指導能力(博士学位を取得又は取得見込み)
- ② 統計科学の基礎知識(統計検定2級相当)と統計的方法の利活用経験
- ③ 統計学教員として**統計エキスパートの育成**に積極的に貢献する意欲
- ④ 研修修了後、日本の大学・大学院において円滑に講義等を実施できること

2. **研修参加を希望する場合**、若手研究者ごとに下記の書類を作成し、参画機関・事業担当教員から中核機関・統計数理研究所・千野あてにe-mail添付(又は郵送)で提出してください。

(参加推薦がない場合にも、念のため、その旨、千野までお知らせください)

提出期限 : 2026年8月10日(月)12時必着
(遅れそうな場合は、事前にご相談ください)

提出先 e-mail : ctps-tokatsu@grp.ism.ac.jp

中核機関のシニア教員及び参加推薦のない参画機関の事業担当教員から成る「コンソーシアム選考委員会」が、当該書類を基に上記①～④の能力・意欲に関する審査・選考を行い、**9月中下旬までに研修参加の可否を決定**する予定です。

【提出書類】

① 履歴書（添付の履歴書様式）

学歴(高校卒業以降)、研究教育歴・職歴、所属学会、学位、賞の取得状況を記載。

② 研究業績リスト

原著論文、査読付き Proceedings、その他の Proceedings、解説等、著書、ソフトウェア、競争的資金獲得の実績、特許等に区別し、それぞれ年代順に記載。

③ 主要論文(3編以内)

主要論文をファイル等で添付。

④ 研究概要（A4判2頁以内）

前項の主要論文の要約と位置づけを含めたこれまでの研究概要と研究の経緯について、研究の流れやつながりが分かるように自己評価も含め記載。特に、統計的方法の利活用経験に関して、どの分野のどのデータをどの解析手法で分析したか、統計的方法の適用状況を記載。

また、大学・大学院でどのような統計学の教育を受けたかを記載。

⑤ 研修に関する抱負(A4判2頁以内)

統計学教員育成研修の修了後、所属大学院等において統計学の講義・研究指導等を行うことを期待されていることを踏まえ、今後の人材育成において自分が貢献できることなどを記載。

また、1年間の育成研修の後、更に1年間のフォローアップ研修の受講を希望するか否かを記載(検討中も可)。

⑥ 推薦書及び研修期間中の支援概要

指導教員、事業担当教員等からの「推薦書」及び「研修期間中の支援概要」(若手研究者の業務負担の軽減など、円滑な研修参加に向けた支援の概要)を添付。

⑦ 統計検定結果

統計検定2級以上の種別の合格証、または統計検定2級 CBT 方式試験の受験後に提示される「試験結果レポート」を添付*。

※ 未受験者は、推薦までに統計検定2級の CBT 方式試験を受験し、試験直後に提示される試験結果レポートを提出してください(受験料金は統計数理研究所が支給しますので、お知らせください)。

これは、統計学基礎の範囲を理解していただくとともに、統計学の分野ごとの基礎知識を可視化するために求めるものですので、推薦の段階で統計検定2級に合格している必要はありません。

⑧ その他

選考の段階で、追加して書類の提出を求めることがあります。

統計学教員育成研修 研修計画

統計数理研究所
大学統計教員育成センター 研修部

1. 研修の目的

データサイエンス・AIの基盤である「統計学」全般を体系的に教え、機械学習・ディープラーニング等の基礎となる統計的思考・手法を活用した研究・指導を行うことのできる質保証された統計学教員を育成する。

2. 研修の構成

「統計学教員育成研修」(育成研修)は、履修期間1年間の研修であり、半年ごとに第1クール、第2クールに分けて実施する。「達成度管理WG」(研修生・所属機関教員・メンター等)により、進捗状況を確認)

育成研修修了者のうち、本人及び所属機関が希望し研修部が受講を認める者に対しては、これに加えて、履修期間1年間の「統計学教員育成フォローアップ研修」(フォローアップ研修)を実施する。

いずれの研修も、オンライン研修を中心とする方法により実施する。

(グループ研修では、研修生とメンターの相談により、対面研修で実施することがある)

(「研修成果発表会」(年3回程度)、「統計関連学会連合大会」(年1回)などで、対面により研究成果を発表)

3. 研修の目標

統計学の深い知識と活用能力を有し、大学院修士課程学生に次の講義を行えること

育成研修 第1クール： 基本的な統計学の講義

〃 第2クール： 発展的な統計学の講義

フォローアップ研修： 専門分野と統計学が融合した講義

4. 研修修了の認定

研修生が別紙の修了要件を満たした場合、それぞれ「統計学教員育成研修 修了者」、「統計学教員育成フォローアップ研修修了者」として認定し、修了証・履修証明書を交付する。

5. 研修の科目

研修の科目は、下記に示す「基礎科目」(必修科目)と「個別科目」(選択科目)である。

「育成研修」では、基礎科目(A・B)を全員が受講する。さらに、先端的データサイエンス特論など、できる限り多くの個別科目を受講することを期待する。

「フォローアップ研修」では、基礎科目(C)を全員が受講する。さらに、教材開発演習、共同研究演習などから1つ以上を、研修生・所属機関・研修部との相談により決定し、個別科目として受講する。

【育成研修の科目】

基礎科目(必修科目)：各クールにおいて、次のA・Bを全員が履修

A：統計ベースライン特習 ～統計学の知識の向上

① 全体研修：全員参加のオンライン研修

研修生がクールごとに模擬講義を行い、また、他の研修生の模擬講義に参加することを通じて、統計学の基礎的な知識(第1クール)・発展的な知識(第2クール)を習得

- ② グループ研修：メンターごとの少人数グループによる個別指導（オンラインまたは対面）
メンターごとに1ヶ月に数回・各2時間程度実施、統計学の知識を習得

B：統計教育力育成演習 ～統計学の講義の体験、講義方法の研究・改善

- ① 全体研修：全員参加のオンライン研修
研修生がクールごとに公開模擬講義を行って実践的な講義体験を重ね、また、他の研修生の公開模擬講義に参加することを通じて、講義方法を研究・改善
(Aと合わせ、クールごとに2回・合計4回の模擬講義を実施、多数の模擬講義に参加)
- ② グループ研修：メンターごとの少人数グループによる個別指導（オンラインまたは対面）
メンターごとに1ヶ月に数回・各2時間程度実施、シラバス・教材等を研究・開発

個別科目（選択科目）：各クールにおいて、次の科目を選択して受講

○ 先端的データサイエンス特論、先端的データ分析演習

数種類の講座を、それぞれ5～13回（1回90分程度）、オンラインにより開講（各2～3か月程度）
研修生はそれらの講座の中から選択して受講し、レポートを提出

<オンライン講座の例>

- 先端的データサイエンス特論（統計的因果推論）
- 先端的データサイエンス特論（機械学習基礎）
- 先端的データサイエンス特論（方向統計学）
- 先端的データサイエンス特論（社会の中の統計科学）
- 先端的データ分析演習（Python）
- 先端的データ分析演習（R環境） など

【フォローアップ研修の科目】

基礎科目（必修科目）：研修受講者全員が次の科目を履修

C：統計研究力強化演習 ～研修生の専門分野の研究教育能力の向上

所属参画機関でのFD活動を通じ、修士学生等を対象とした講義を実施・提案するなど、専門分野における実践的な研究教育能力を向上

個別科目（選択科目）：研修生の専門性や関心に基づき、次の科目を選択して受講

それぞれ1年程度必要と考えられる演習であり、1つ以上を選択することが望ましい

○ 教材開発演習

専門分野と統計学が融合した講義の教材の作成を始め、e-learning教材や動画教材の作成、教科書の執筆など、多岐にわたる教材の開発や統計学教育法の開発が考えられる。

○ 共同研究演習

他の専門分野の研修生や多岐にわたる統計手法を熟知するシニア教員との交流を通じて発展させ、新たな視点など研究領域の広がりを目指す共同研究で、その成果は学会発表や研究論文で示される。

○ コンサルテーション演習

官庁や企業などから相談や依頼を受け、統計学の実践的な知識を活用したコンサルテーションを行う。
内容によっては、共同研究に発展する可能性がある。

【育成研修】 修了認定の要件

科目名（基礎科目）	重み	評価内容
統計ベースライン特習	必修	模擬講義＋グループ研修
統計教育力育成演習	必修	模擬講義＋グループ研修
統計検定 2 級	必修	受験合格
科目名（個別科目）	重み	内容
先端的データサイエンス特論（トピックス名） 先端的データ分析演習（トピックス名）	20～40 (研修部で決定)	講義参加＋レポート
統計検定準 1 級	30	受験合格
統計検定 1 級	～50 (研修部で決定)	受験（受験後の評価を提出）
修了認定要件	基礎科目 及び 合計 60 以上の 個別科目の習得	

【フォローアップ研修】 修了認定の要件

科目名（基礎科目）	重み	評価内容
統計研究力強化演習	必修	F D 活動
科目名（個別科目）	重み	評価内容
教材開発演習 共同研究演習 コンサルテーション演習	選択必修	演習の参加＋レポート
修了認定要件	基礎科目 及び 1 つ以上の個別科目の習得	

履歴書 - 1

ふりがな		性別	生年月日 (西暦)	写真 縦:4cm 程度 横:3cm 程度
氏名			年 月 日 (歳)	
ふりがな				
現住所	〒			
ふりがな				
連絡先住所	〒 (現住所以外の連絡を希望する場合のみ記入)			
連絡先電話番号				
E-mail アドレス				
年 (西暦)	月	日	学 歴 (高校卒業以降記入)	
年 (西暦)	月	日	研 究 教 育 歴 ・ 職 歴	
年 (西暦)	月	日	現 職	

※『性別』欄：記載は任意です。未記載とすることも可能です

履歴書－２

年（西暦）	月	日	学 位
所属学会			
年（西暦）	月	賞の取得状況	
<p>上記のとおり相違ありません。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 氏名</p>			

(署名・押印は、必要ありません。)